

Ⅲ ヒアリング調査からみた経営動向

(1) 一般機械器具

業界の動向

県内の一般機械の生産指数（埼玉県鉱工業指数月報による季節調整済指数。以下同じ。）は、直近の平成30年9月で、はん用機械工業が141.6（前月比6.5%減少、前年同月比11.7%減少）、生産用機械工業が93.0（前月比41.7%減少、前年同月比15.0%減少）であった。

【景況感】

- ・受注状況は依然として好調であり、景況感は良好であると感じている

【売上げ】

- ・依然として工場はフル生産体制の状態である

【品目別の状況】

- ・食品関連と医療関連の売上げが増えている
- ・医療関連ではインフルエンザ予防薬の受注が増えている

【受注単価】

- ・受注先は単価低減よりも納期重視であり、受注単価は変わらない水準である

【原材料価格】

- ・鋼材関連が2～3%上がった
- ・副資材関連が前年同期比で約10%増えている

【採算性】

- ・設備投資の効果で生産効率は向上しており、採算性は良化している
- ・設備更新による生産性の向上が道半ばで、採算性は悪くなった

【設備投資】

- ・生産体制の効率化のための設備投資を行った

【今後の見通し】

- ・受注残も当面相応にあり、先行きの景況感も良い方向に向かっている
- ・受注に調整が入る可能性あり、先行きの景況感についてはどちらともいえない

(2) 輸送用機械器具

業界の動向

県内の輸送機械工業の生産指数は、直近の平成30年9月に88.8となり、前月比で2.8%減少、前年同月比では3.1%の増加となった。

【景況感】

- ・廃業はあるが、倒産したという話は聞かない
- ・現在は落ち着いている
- ・人手不足が非常に深刻

【売上げ】

- ・欧州向け建機・自動車関連が減少。中国向け建機はやや減少した
- ・自動機（省力機）関連が減少した

【受注単価】

- ・不採算製品については取引を終了した

【原材料価格】

- ・金属が全般的に上昇・高止まり。鉄は上昇しているが、高機能ステンレス鋼は下降気味

【諸費用】

- ・工具類の価格が上昇している

【採算性】

- ・単価引き上げにより改善
- ・利益率が低い製品の販売比率が上昇したため悪化気味

【設備投資】

- ・人手不足対応の省人化設備を導入する予定
- ・極力設備投資はせず、現有設備を最大限活用する

【今後の見通し】

- ・徐々に下降気味か
- ・1～3月期は下がるが、4月以降は上昇の見込み

(3) 電気機械器具

業界の動向

県内の電気機械工業の生産指数は、直近の平成30年9月に81.7となり、前月比で11.8%減少、前年同月比でも24.4%の減少となった。

【景況感】

- ・一口に半導体といっても手がけている分野によって伸び方が違う
- ・大手は良いのではないか。自分のところは予想通り悪い
- ・温度差がある。廃業した話は聞かないが、事業承継が難しい

【売上げ】

- ・EV車、HV車関連が伸びた
- ・医療関連の売上げが安定している
- ・衛生用品も製造しているが、中国向けの売上げが貿易摩擦の影響でゼロになったものがある

【原材料価格】

- ・ほとんど変わらない
- ・原油価格上昇の影響で少し上がった

【人件費】

- ・中途採用が多いため、増えた。最低賃金改定の影響は大きくない
- ・最低賃金改定のため、月250万ほど上がった
- ・定期昇給分だけ上がった

【採算性】

- ・人件費がかさむため利益が出ない
- ・売上げの動向通りである

【設備投資】

- ・建物老朽化に伴う修繕費
- ・増産に伴う設備投資を行う予定

【今後の見通し】

- ・見通しはどちらともいえない
- ・米中貿易摩擦の影響が大きい

(4) 金属製品

業界の動向

県内の金属製品工業の生産指数は、直近の平成30年9月に80.1となり、前月比で4.3%増加、前年同月比では4.2%の減少となった。

【景況感】

・受注は堅調であるが、原材料の高騰などがあり景況感は普通である

【売上げ】

・足元の売上げは増えているが、受注が全体的に落ち着いてきている

【品目別の状況】

・自動車関連は相変わらず好調に推移している
・半導体関連は調整局面に入りつつあるとみている

【受注単価】

・一部の新規受注単価を上げることができた

【原材料価格】

・鉄やアルミなどが前年同期比で約10%上がっている
・ニッケルや亜鉛の価格が若干上がっている

【採算性】

・受注単価を上げられたため、採算性は良化した
・人件費や原材料費の高騰分を吸収できず、採算性は悪化した

【設備投資】

・社内システムの刷新を検討中である

【今後の見通し】

・プラスの要因とマイナスの要因があり、どちらともいえない

(5) プラスチック製品

業界の動向

県内のプラスチック製品工業の生産指数は、直近の平成30年9月に82.3となり、前月比で2.7%増加、前年同月比では0.3%減少となった。

【景況感】

・業界の景気はあまりよくないと聞く。廃業などの声はなし
・引き続き多忙
・人手不足が非常に深刻である

【売上げ】

・医療、自動車製造設備関連は好調
・半導体関連がだいぶ落ち着いてきた感がある
・今年の台風の影響で修繕用の屋根建材が好調

【受注単価】

・値上げ交渉の結果、改善傾向にある

【原材料価格】

・樹脂材料の値上げが止まらない
・高止まりだが、ナフサ価格が下降気味の様子

【人件費】

- ・賞与を増額した
- ・派遣社員を直接雇用したため増えた

【採算性】

- ・取引先との値上げ交渉の結果、改善傾向にある

【設備投資】

- ・国庫補助金を活用して設備投資を実施した

【今後の見通し】

- ・外注を含めどこも多忙である

(6) 食料品製造

業界の動向

県内の食料品工業の生産指数は、直近の平成30年9月に117.2となり、前月比で2.0%増加、前年同月比では17.3%増加となった。

【景況感】

- ・受注状況は悪くはないが、原材料価格の高騰などのマイナス要因もあり、景況感は普通であると感じている

【売上げ】

- ・OEM受注が依然として好調に推移している

【製品単価】

- ・ほぼ変わらない

【人件費】

- ・ベースアップを行ったことから増えている

【採算性】

- ・受注増で生産効率が向上しており、採算性は向上している
- ・生産の効率化や経費削減で原材料価格の上昇分を吸収している

【設備投資】

- ・これまで扱ってこなかった冷凍商品に対応する設備投資を行った

【今後の見通し】

- ・様々なチャネルでの販売ができつつあり、自社の景況は良い方向に向かうとみている
- ・プラスの要因とマイナスの要因があり、先行きの景況感はどちらともいえない

(7) 銑鉄鋳物

【景況感】

- ・業界全体では、昨年度ほどではないものの、今年度も好況感が継続しているのではないかと

【売上げ】

- ・好調である。仕事は多い。年間生産量は当社最高レベルのペースである
- ・取引を希望してくる企業は多いが、諸条件を考慮し、お断りしている案件も多い
- ・昨年同期と比較すると半導体関連の受注が減少している

【受注単価】

- ・中国から輸入している樹脂の値段が少し上がった時期があったが、今は落ち着いている

【人件費】

- ・給与のベースアップは、新規求人や従業員の定着率とほとんど関連が無いように感じる

【今後の見通し】

- ・各社とも具体的な変動要因が見当たらないものの、昨今の国際情勢を懸念する声があった

(8) 印刷業

業界の動向

県内の印刷業の生産指数は、直近の平成30年9月は89.1となり、前月比で0.6%減少、前年同月比では1.2%減少となった。

【景況感】

- ・材料の値上げもあり、不況である
- ・受注が減り、競争も激しいため不況である

【売上げ】

- ・売上げは減少したが、コスト削減により収益は維持している
- ・前年が非常に厳しかったため、今期の売上げが増加してみえるが、よくはない

【受注単価】

- ・材料も支給される場合が増え、受注単価は下がったが印刷単価はそう変わっていない
- ・発注数が減少しているため、受注単価が落ちている
- ・前期に一部値上げして以降は上げていない

【原材料価格】

- ・紙メーカーで近々値上げする動きがあるようだ
- ・インク価格は変わらない見込みである

【採算性】

- ・粗利はほとんど変わらない
- ・人件費等の経費削減により、採算はよくなった
- ・受注内容によっては、売上げは上がるが利益率が下がるものがある

【設備投資】

- ・機械の更新を数件行った
- ・新しく出た機械の生産性が向上しており、他社製品からの乗換購入が多いと聞いた

【今後の見通し】

- ・ラグビー、オリンピック関連の仕事が増えているので、良い方向に向かうと思うが、その先も考えなくてはいけない
- ・改元も控えており、良い方向に向かうのではないか
- ・改元の動きは気になるが、景況が良くなる材料は少ない

2 小売業

(1) 百貨店

業界の動向

商業動態統計月報（経済産業省、以下同じ）によると、県内百貨店の平成30年10月の販売額は、153億700万円であり、既存店ベースで前年同月比0.4%の増加となり、11か月ぶりに前年同月を上回った。

【景況感】

- ・購買意欲が減退している感がある
- ・安くても本当に必要かどうか見極めている。安いだけでは購入しない

- ・都心店は好況であるが、郊外店は苦戦している

【売上げ】

- ・11月は祝日が一日少なく、暖冬のため冬物（衣料・食材）が動かず厳しい
- ・郊外店は、近隣のスーパーと競合しており、食料品の売上げが苦戦している
- ・復興支援の意味合いもあり、北海道物産展は売上げがとれた

【諸経費】

- ・売上不振のため、人件費等経費削減に努めている
- ・送料の値上げにより経費は上昇している
- ・広告宣伝については、サイズを縮小し、部数を減少した

【採算性】

- ・管理費の削減で採算はよくなった
- ・利幅のある衣料品の売れ行きが厳しいため、苦戦している

【今後の見通し】

- ・消費増税も見えてきており、どうだろうか
- ・企画も用意しているので、良い方向に向かうと考えている
- ・どちらともいえない

(2) スーパー

業界の動向

商業動態統計月報によると、県内スーパーの平成30年10月の販売額は、666億1,700万円であり、既存店ベースで前年同月比1.9%の減少となった。全店ベースでは前年同月比0.1%の増加となり、5か月連続で改善した。

【景況感】

- ・米中貿易摩擦、株価値下がり等、政治を背景としたマイナス材料がある
- ・物価は上昇傾向だが、消費者が醸し出す「デフレ感」が強まっている。高いものは購入せず、安いものに目がいくようになっている

【売上げ】

- ・こまめに買うよりまとめ買いが主流。米や水など重たいものは通販に流れてしまう
- ・10月は良かったが、11月は良くない。野菜、精肉の原価が安くなっている
- ・気温が例年より高いため、鍋関連の商材が売れない

【諸費用】

- ・最低賃金が改定され、人件費が上がった
- ・チラシを余剰に配布したため、広告費が上がった
- ・電気代、ガス代の単価が上がっている

【今後の見通し】

- ・大きく変わる要素がない。客数が伸び悩んでいる
- ・来年の10月までは良いと見込んでいる
- ・増税の悪影響が出てくるだろう。小売業は、外税表示でないと生き残れない

(3) 商店街

業界の動向

平成30年11月の月例経済報告（内閣府）は、個人消費について「個人消費は、持ち直している。実質総雇用者所得は緩やかに増加している。また、消費者マインドは弱含んでいる。」と総括している。

【景況感】

- ・今期はイベントも多く、来街者が増えて賑わっている
- ・これまでの種まき活動の効果で、お客さんの広がりをはじめ感じている
- ・いいとも悪いとも言えない

【来街者】

- ・猛暑で減少していた来街者も回復したが、前年同期比ではあまり変わらないのでは
- ・最近、大型レジャー施設がオープンしたが、お客さんが商店街に流れている感はあまりない
- ・来街者は、ほとんど変化がない

【個店の状況】

- ・建設中の共同住宅は、1階部分は店舗スペースとなっており、複数店舗の入居を期待している
- ・店舗賃料が高いため、利益率の高い業種でないと経営上厳しいのではないかと
- ・一般のお客に迷惑がかかるとのことで、バルのイベントに人気の飲食店が参加しなくなっている

【商店街としての取組】

- ・100円商店街を実施する。開催について電話での問い合わせもある
- ・商店街振興組合連合会の企画で、商店街を巡る観光バスツアーを実施したが、好調であった
- ・県の補助金を活用して、パンフレット印刷と加入店に設置する専用ラックを用意する

【今後の見通し】

- ・来街者は減少する時期ではあるが、景況感はそのままで悪くないのでは
- ・増税を意識し始めるので、よくなるかわからない
- ・どちらともいえない

3 情報サービス業

業界の動向

特定サービス産業動態統計月報（経済産業省）によると、情報サービス業の売上高は、直近の平成30年9月は前年同月比0.6%の減少となり、2か月ぶりに減少した。

【景況感】

- ・M&Aが多くなった。小規模で派遣のみでやっている業者は、後継者がいないと聞く
- ・海外に仕事が流れている。重ねて、人手不足である
- ・全体的に忙しく、景気は良好であるとみている

【売上げ】

- ・官公需の仕事が終了したため、売上げが減少した
- ・社員が退職したため売上げが減少した
- ・キッキング(パソコンなどの導入時に実施するセットアップ作業)の仕事が増えている

【人件費】

- ・最低賃金改定のため、上がった。同一県内でも、地域の状況によって水準を変えてほしい
- ・去年入社した社員の給料を上げたが、大きな影響はない

【設備投資】

- ・新規機械設置のための事務所を借りた

【採算性】

- ・官公需の仕事が終了したため、採算がよくなると見込まれる。価格が低いうえ、社会保険料が負担になっていた
- ・厳しい。価格交渉と人件費高騰とのせめぎあいである

【今後の見通し】

- ・バブル期に比べるとよくないが、オリンピックまではもつだろう

- ・あと一年は変わらないのではないか。米中貿易摩擦の影響を受ける中小企業が出てくると思う

4 サービス業

【景況感】

- ・足元の受注は好調であり、景況感は良好であると感じている

【売上げ】

- ・バス旅行の最低受注額の増額が世間で認知されてきており、受注は好調に推移している

【受注価格】

- ・前期に比して受注単価は上げることができた

【採算性】

- ・受注単価が上がっており採算性は良化している

【設備投資】

- ・設備投資は実施しなかった

【今後の見通し】

- ・受注状況が不透明であり、どちらともいえない

5 建設業

業界の動向

建設総合統計出来高ベース（国土交通省）における埼玉県の状態は、直近の平成30年9月で1,912億円、前月比で5.3%増加、前年同月比では4.6%増加となった。

【景況感】

- ・足元の受注は好調であり、景況感は良好であると感じている
- ・受注状況は好調であるが、経費が増大していることから景況感は普通と感じている

【受注高】

- ・受注は依然として堅調に推移している

【受注価格】

- ・現状で受注単価は同水準である

【資材価格】

- ・鉄鋼関連が前期比で約20%上昇している

【採算性】

- ・原材料高などの経費増加分を吸収できず、採算性は悪化した
- ・経費削減効果がでて収益性が良化した

【設備投資】

- ・特筆すべき設備投資は行わなかった

【今後の見通し】

- ・どちらともいえない